

# **「愛知県における新生児医療ネットワーク の構築に関する検討」**

**平成 25 年度報告書**

## 研究課題 「愛知県における新生児医療ネットワークの構築に関する検討」 報告書

名古屋第二赤十字病院新生児科

田中 太平

名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター 新生児部門

早川 昌弘

愛知医科大学学生殖・周産期母子医療センター

山田 恭聖

平成 24 年度に愛知県周産期医療協議会による助成のもと、愛知県内の新生児医療に関わる医師を中心としたネットワーク（東海 NeoForum）を作り、ホームページを立ち上げた。東海 NeoForum では、ネットワーク上の情報交換に加えて、5つのワーキンググループ (WG) に分かれて活動をおこなっている。今後、このネットワークをさらに拡充することで、愛知県全体の周産期医療レベルの底上げを図り、将来を見据えたプランニングなど、幅広く実務的なシステムを構築することを目標としている。

### 1) 東海 Neoforum HP について

名古屋大学医療管理学寄附講座杉浦伸一先生方にご協力いただき、インターネット上にセキュリティーシステムを備えた東海 NeoForum のサイトを開設した。ただ、東海 Neoforum が使用している Office 365 が米国でバージョンアップされた影響を受けて、平成 25 年末までエラー表示が多発するトラブルにみまわれたが、杉浦先生のご尽力もあって、現在ではエラー表示もほとんど認められなくなった。

### 2) 運用方法について

#### ■ 登録

- 東海 NeoForum への登録は施設代表の小児科医師に限定したが、システムがスムーズに運用できるようになった後、産婦人科医、看護師、パラメディカルも登録できるようにし、愛知県全体の周産期医療のレベルアップ、交流を深めてゆく予定としている。なお、加入希望者の審査、確認は名古屋第二赤十字病院新生児科田中太平が担当することとなった。
- 本システムは概ね安定化してきたと考えられるため、平成 26 年度から本フォーラムの参加施設の拡大を図ることとした。登録方法としては、事務局（名古屋第二赤十字病院新生児科田中太平）に連絡してもらった後、登録希望者に Hot mail address を取得してもらい、個人アドレスと一緒に事務局に提出し、登録手続きを進めることとした。

#### ■ 意見・情報交換

- サイトに書き込みをした場合には、全登録者の所にメールが届き、意見交換を行えるように設定されている。また、各投稿に対して個別にコメントを入力できるため、過去のディスカッションが見やすい形式となっている。
- サイトの中に学会発表のスライドや研究内容を掲示できる場所を設けてあり、自由に閲覧したり、意見交換ができるように設定してある。
- 保険診療点数、重症心身障害児施設、バックトランスファー病院などの情報についても掲示、案内を出す予定としている。
- 講義に利用するスライドなど、情報を共有化できるように配慮されている。また、HP にアップされた内容については、講義などに利用してもいいことが内諾されている。

## ■ 5つのワーキンググループ

- ・ 教育、データベース、アンケート調査、施設交流、他職種交流 WG) に分かれて、グループ毎にテーマを設けて検討を行っている。

### 3) ワーキンググループ

#### 1) 教育

教材のアップロードを行ったので、医療従事者に対する教育用参考資料としてドラッグ&ドロップで簡単にアップロードできるようになった。

#### 2) 施設情報データベース

登録するためのデータベースの準備を進めている。なお、基本的に情報の閲覧は東海 Neoforum 登録者に限定されるが、情報漏洩については、常に配慮が必要と考えられる。

#### 3) アンケート調査

- ・ ビリルビンの測定方法と黄疸の治療について

ビリルビンを吸光度で測定する場合（ビリメーター）には、器械の定期的な校正が必要であること、毛細管は純正品を使用しなければ誤差が生じる場合があるため他社製品を使用しないようにした方がいいという指摘があった。名古屋市立大学からの提唱で、ビリルビンの測定には純正品の毛細管を使用しなければならないことが、2014年に小児科学会からも警鐘が出された。

光線療法の開始基準は、ビリメーターによる村田の基準をもとに決定している施設もあったが、大型の生化学測定装置（酵素法）、血液ガスで測定されているビリルビンの値を基準としている施設もあった。一部の施設では、アンバウンドビリルビンの測定も併用されていた。

#### 4) 施設交流

1年前に改築された名古屋第二赤十字病院 NICU では見学を随時受け入れている。県外からも、北海道、静岡、福井、岡山、米国、タイからの見学者も来院した。また、近隣の NICU との連携強化も図られる予定となっている。県内の各施設紹介を HP 内で行うという意見も出たため、来年度の課題と考えている。

#### 5) 他職種とのコラボレーション

各施設の紹介にあたっては、看護師の施設見学を兼ねて、インタビューに行ってもらってはどうか？という意見も出た。今後、NICU の医師以外の登録者が増えれば、看護師間での交流の一助になると推測される。

#### 4) フリーディスカッション、情報交換

- ・MRSA 感染予防について

エコーのプローベにカバーをつけることで MRSA 保菌率が低下したとの報告があった。カバーの素材としては、サランラップ、無滅菌手袋、プローベカバーと施設によって異なっていた。

- ・超低出生体重児に対する鎮静について

超早産児において、鎮静を解除した直後に脳室内出血を発症した事例があり、情報交換をおこなった。多くの施設ではフェンタニルを使用、一部にモルヒネを使用している施設もあり、ほとんど鎮静を行わない施設もあった。鎮静と一概にいても、その薬剤種類、深度などによって施設の方法がさまざまであった。

- ・MRSA 保菌者増加による病棟閉鎖と閉鎖解除に関する連絡があった。

- ・痛みの緩和

採血・気管吸引など痛みを緩和するためのショ糖が食品として製品化された。その使用方法に関する情報提供があった。

- ・GCUのベッド数について

各施設の稼働率や NICU と GCU のベッド比率について意見が交わされた。周産母子医療センターにおける GCU の病床数は、NICU の 2 倍が好ましいという発想は時代にあっていないという意見も多く、今後周産期・新生児医学会の理事会等で検討してもらうことが提案された。

- ・バックトランスファーについて

現在東海地区にはバックトランスポートのシステムが確立していないが、病状が落ち着いた児を相互に搬送し、GCU を有効に活用する方法を模索してもよいのではという提案があった。

- ・NICU 改修工事に関する情報提供があった。

平成 26 年に名古屋大学の GCU の拡張工事を行うため、入院制限が行われる。

平成 26 年 4 月より、愛知医大病院引っ越しに伴い、母体搬送受け入れ制限を行う予定である。

- ・各種研究会（愛知小児在宅医療研究会、脳性麻痺予防研究会）などの情報提供があった。

#### 5) 発表データを登録するサイト（平成 25 年度に追加された情報）

- ・小児科医として知っておきたい乳幼児健診のポイント

- ・愛知県における新生医療ネットワークに関する検討

- ・H25 年小児科学講義

- ・高ウイルス量妊婦へのラミブジン投与による B 型肝炎ウイルス母子感染予防

- ・HTLV-1 の母子感染について

- ・ショ糖のポリシー

#### 6) 今後の課題

- ・システムの安定化を図り、より円滑な情報交換ができるシステム作りを検討してゆく。

- ・あいち小児保健総合医療センターが本会に参加の希望があったが、東海 Neoforum の運営実績が軌道に乗ったうえで再検討することとなった。

- ・参加施設の拡大、産科医師、看護師、助産師などパラメディカル等の参加者拡大への準備を進める。

- ・愛知県周産期医療協議会調査研究事業に、東海 NeoForum より研究課題を定期的に提出してゆく。